

原子力だより

みやぎ

平成12年4月号 vol. 73

女川原子力発電所周辺の環境放射能及び
温排水調査結果のお知らせ 2 3

アトムのはなし 4

作品コーナー 5

わが町紹介 6

女川原子力発電所の火災について
西暦2000年問題について
宮城の味・満喫 7

お知らせコーナー 8



〔石巻市〕

待望の石巻総合運動公園が
4月にオープンします。
(南境地区)

公園内には、スポーツ施設として野球場、フットボール場、ふれあいグラウンド。公園施設としてやすらぎ広場も併せて整備されます。

スポーツで利用するほか遠足やレクリエーション、家族や友達同士で、また子どもからお年寄りまで多くのみなさまが楽しめる公園です。

女川原子力発電所周辺の

環境放射能及び温排水調査結果

(平成11年10月～12月)

環境放射能

今期のモニタリングの結果、女川原子力発電所周辺の空間ガンマ線線量率の値と環境試料に含まれる放射性核種の濃度は、これまでとほぼ同じ値で推移しています。これらのモニタリング結果及び女川原子力発電所の運転状況等から、原子力発電所に起因すると考えられる放射線及び放射能の異常は認められませんでした。

[1] 電離箱測定器による空間ガンマ線線量率

今期の結果は、下図のようにほぼ過去の範囲内であり、女川原子力発電所による影響は認められませんでした。

なお、寄磯局においては、過去の範囲をわずかに超えた値が観測されましたが、これは10月15日の降水に伴う自然の影響によることが確認されました。

今期の測定値範囲
 平成2～10年度測定値範囲
 ナノグレイ/時



[2] 環境試料

未耕土の試料について、ストロンチウム90の値が過去の範囲を超えましたが、この値も含めて女川原子力発電所による影響は認められませんでした。

今期の測定値及び測定値範囲
 平成2～10年度測定値範囲

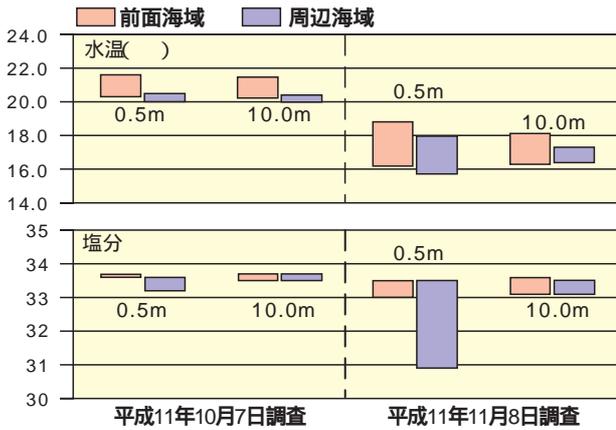
種別	試料名	核種	放射能測定結果					単位	試料数	採取月
			0.01	0.1	1	10	100			
農産物	大根(葉)	Cs-137	[]					ベクレル/キログラム生	4	11
陸土	未耕土	Sr-90				[]	ベクレル/平方メートル	1	12	
		Cs-137				[]	ベクレル/平方メートル	1	12	
指標植物	松葉	Cs-137	[]					ベクレル/キログラム生	3	11
魚介類	あいなめ	Cs-137				[]	ベクレル/キログラム生	1	10	
	かき	Cs-137	[]					ベクレル/キログラム生	4	10
海水	表層水	Cs-137	[]					ベクレル/リットル	4	10,11
海底土	表層土砂	Cs-137	[]					ベクレル/キログラム乾土	4	10,11
指標海産物	あらめ	Cs-137	[]					ベクレル/キログラム生	5	10,11
	むらさきがい	Cs-137	[]					ベクレル/キログラム生	2	11,12

(核種Sr-90...ストロンチウム90、Cs-137...セシウム137といたします。)

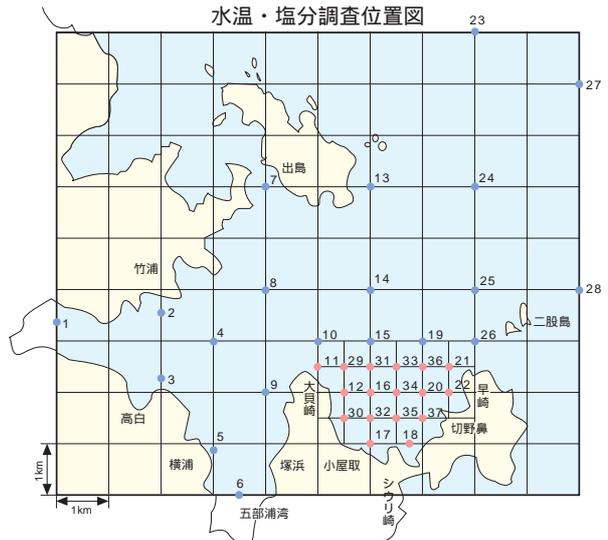
● 温排水

水温・塩分調査及び水温連続モニタリングから、女川原子力発電所の温排水によると考えられる異常な値は、観測されませんでした。

[1] 水温・塩分調査結果

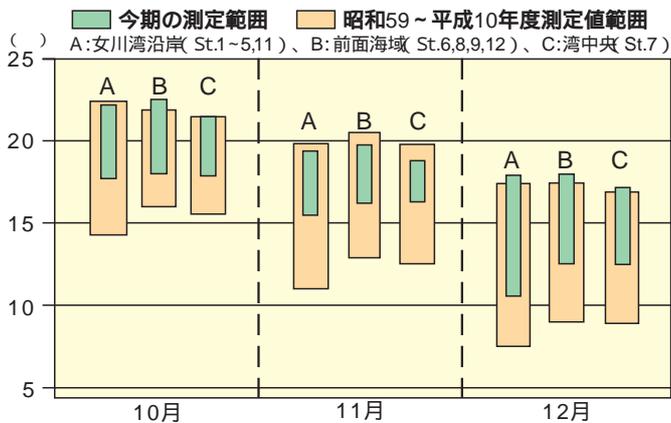


注1 前面海域とは大貝崎と早崎を結ぶ線の内側(調査点11,12,16,17,18,20,21,22,29-37)をいいます。
 注2 塩分は、近年、電気伝導度(電導度)を測定して求める方法が一般化し、新しい定義では表示単位はないが、従来の「海水1kg中に含まれる固形物質の全量をg数で表したも(旧塩分単位、‰)」に相当する値である。
 注3 0.5m、10.0mは、調査水深を表しています。

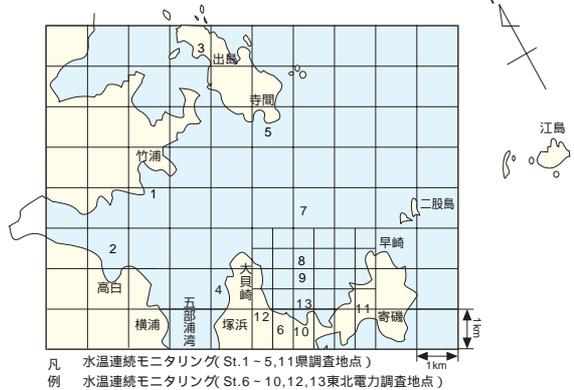


[2] 水温連続モニタリングによる水温調査結果

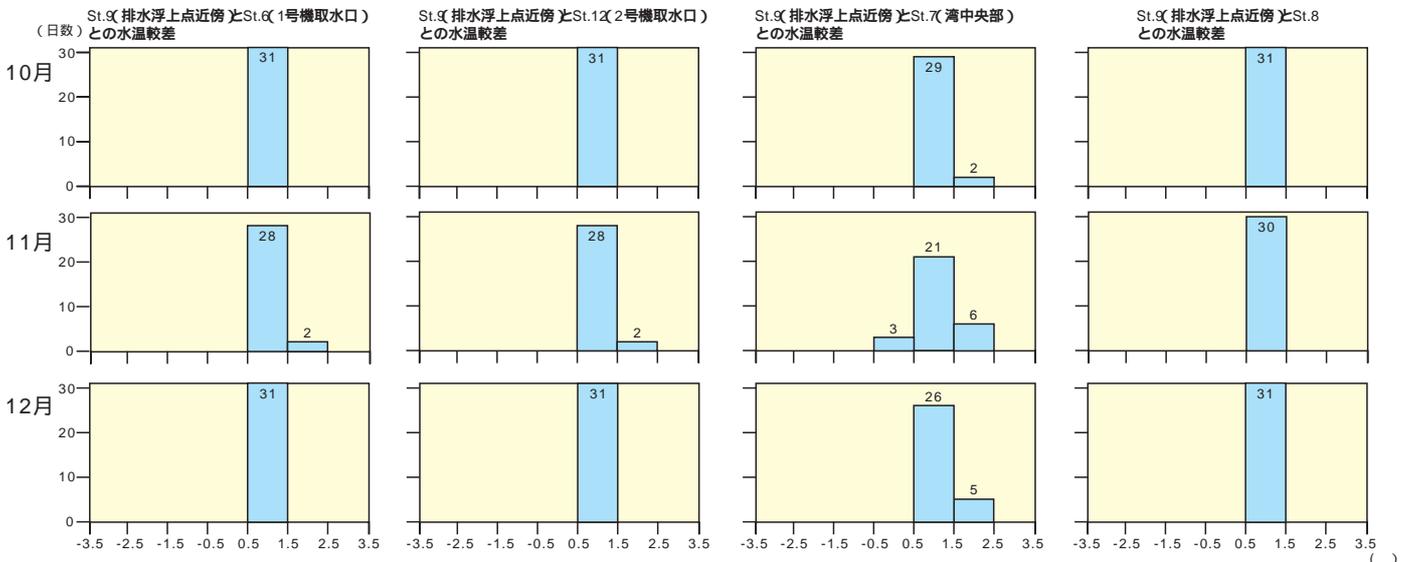
(イ) 水温測定値範囲



水温調査(モニタリング)位置図



(ロ) 測定点間の水温較差



原子力防災訓練と住民アンケート

原子力防災訓練

女川原子力発電所の万が一の事故に備えるため、宮城県、女川町、牡鹿町、石巻市及び雄勝町では、女川原子力発電所が運転を開始する前年の昭和58年度から原子力防災訓練を実施してきました(表1)。

初年度は第1段階の訓練として、緊急時に最も重要となる通信連絡訓練を実施し、翌年からは、第2段階のモニタリング訓練を開始しました。また、平成7年度の第4段階の訓練では、初めて一般住民の参加を得て屋内退避(自宅内退避)訓練を行いました。

平成10年度からは一般住民の避難訓練を含む総合訓練を実施し、各機関相互の連携等を確認することができました。

表1 原子力防災訓練内容の段階的充実

年	度	S58	59	60	61	62	63	H1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
訓	練	1段階		2段階					3段階					4段階			5段階		
項	目	通信連絡訓練	←-----→																
	モニタリング訓練	←-----→																	
	災対本部等設営訓練	県現地本部設営		市町災害対策本部設営			図上訓練		現地会議			現地本部					←-----→		
	資機材準備訓練	←-----→																	
	広報訓練	←-----→							ヘリ広報		屋内退避指示			避難指示					
	医療活動訓練	←-----→																	
	避難所設営訓練	←-----→																	
	屋内退避及び避難訓練	←-----→												屋内退避		避難			

アンケート結果

住民の意見を反映した訓練を目指して、平成7年度から、参加地区の住民を中心にアンケート調査を実施してきました。以下に平成11年度のアンケート結果の一部を紹介します。

図1は、住民への通報手段についての調査結果です。最も良かったと回答した通報手段は、各地区とも防災無線で、次いで消防団員、広報車による通報、そしてヘリコプターの順となっており、防災無線の重要性がわかります。

また、今後の訓練のあり方についての調査結果では、地区による意識の差はあるものの、訓練を毎年実施すべきと回答した住民は、約半数を占めていることがわかりました(図2)。

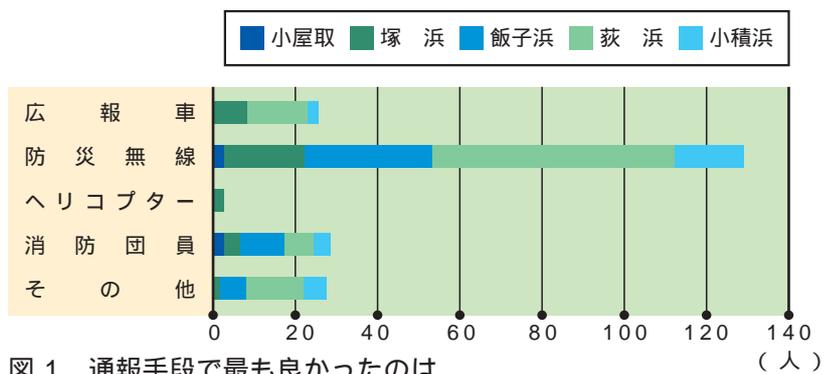


図1 通報手段で最も良かったのは

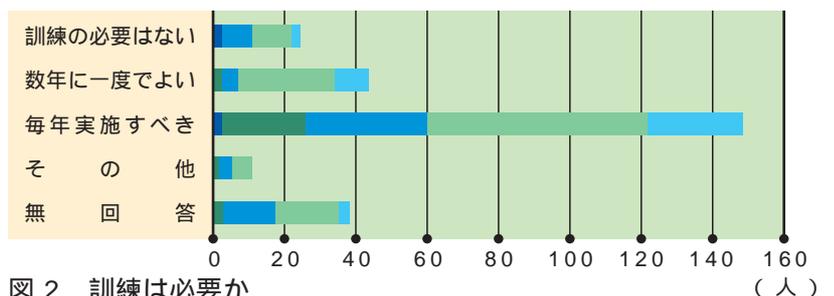
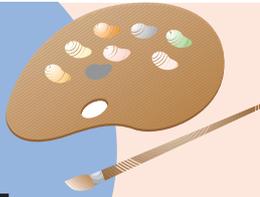


図2 訓練は必要か

作品コーナー

雄勝町立
今回は、大須小学校です。



『チャボ』
1年 小松 瑠依さん



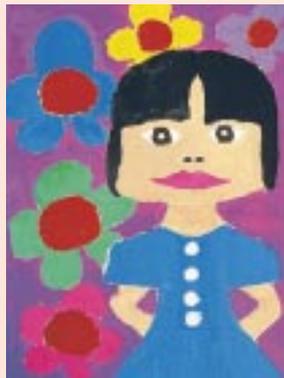
『笛をふく友だち』
4年 高橋 祐太さん



『クロとコッコ』
2年 富永 優己さん



『バターボックスに立ったとき』
5年 西條 利樹さん



『友だちのいい顔』
3年 阿部 也実さん



『雪の中で』
6年 阿部 紋佳さん

学校紹介

大須小学校は、太平洋に突き出た半島の先端にあり、児童数44名の学校です。古くから伝わる「雄勝法印神楽」や地域の自然を生かした「つり大会」などの活動に、全校児童が仲良く取り組んでいます。

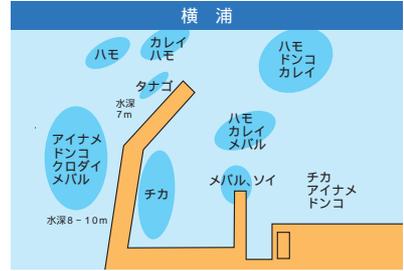
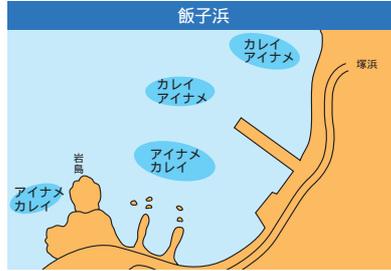
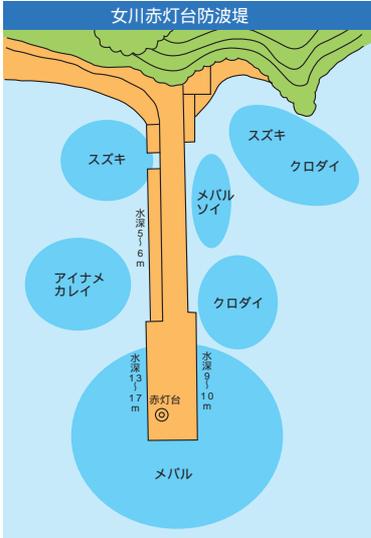
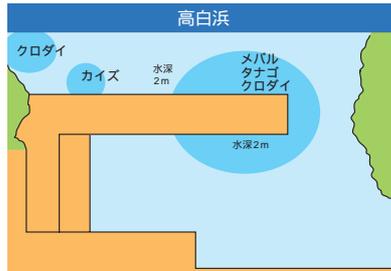
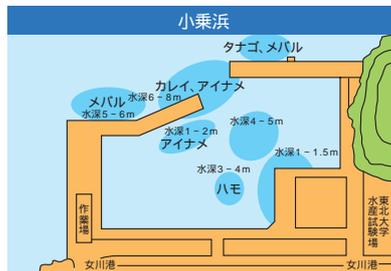
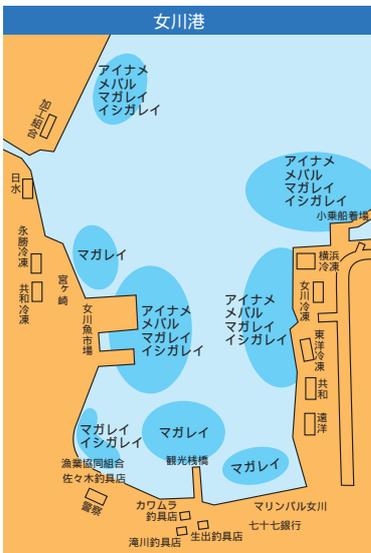


わが町 女川町 紹介



魚種も、穴場も豊富。釣り人のメッカ。
さて、あなたはどの港、
どのポイントを狙いますか。

南三陸の中でも、釣りマニアに特に人気の女川湾。県内外をはじめ、遠くは関東からも訪れる人がいます。船釣りはもちろん、湾内の各港にもポイントが多く、アイナメ、メバル、タナゴをはじめ魚種も豊富。初心者からマニアまで、誰でも気軽に釣りが楽しめます。



詳しい釣り情報は、町内各釣具店にお問い合わせ下さい。

女川原子力発電所の火災について

去る2月24日(火)午後3時29分頃、定期検査中の1号機において火災が発生しました。発生した場所は、制御建屋と呼ばれる建物の地下1階直流電源A室(管理区域外)で、直流電源盤内の充電器のコイルが焼損したものです。午後4時には女川消防署により鎮火が確認されました。原因は、コイルへの通電が、設定時間を超えて長時間にわたり継続したことによるものでした。この火災による環境への影響はなく、また、発電所の運転に支障はありませんでした。

なお、県では当日24日、東北電力(株)に対して原因の究明と再発防止について申し入れを行いました。また、翌25日には、女川・牡鹿町とともに火災現場への立入調査を行い、火災発生時の状況を確認して、今後の再発防止を求めました。



西暦2000年問題について

1月1日、宮城県原子力センター及び女川原子力発電所で、放射線の監視などを行うコンピュータシステムに2000年問題による障害が発生し皆様にご心配をおかけしました。システムは同日中に復旧し、環境放射線の監視及び発電所の運転に支障はありませんでした。

なお、2月29日と3月1日の「うるう日」対応は、問題ありませんでした。

宮城の味・猫喫



三陸沿岸の海の幸を食する 4

釜揚げコウナゴ丼

藤倉馳走塾主宰 酒井 敬一



春も彼岸を過ぎると、間もなくコウナゴ漁がスタートする。コウナゴは本県ではメロードと呼ばれるイカナゴの稚仔魚で、光に集まる習性を利用したランプ網(火光利用敷網)などで漁獲される。コウナゴのことを本県ではシラスとも呼ぶが、全国的に見た場合、シラスは主にカタクチイワシの仔魚を指すことが多い。コウナゴは鮮度落ちがはやいため、水揚げ後は直ちに茹で干しに加工される。晴れた日に漁港周辺の広場いっぱい干されたコウナゴは春の風物詩の一つと言える。生のコウナゴが港に出回るとは少ないが、海辺の魚屋では、この季節の到来とともに一斉に店頭並ぶ。生コウナゴは専ら汁物や卵とじて賞味されるが、ひと味変わった逸品を紹介する。

腹の切れていない新鮮なコウナゴ(全長4~5cm)が手に入ったら、沸騰した5%程度の塩水に放ち、浮いてきたら網杓子でそっと盆ザルにすくい上げ、水気をよく切っておく。この釜揚げコウナゴは、そのまま、大根おろしと醤油で食しても十分に美味であるが、ホイルに薄く広げ、オーブンで10~15分焙ると香ばしさが加わり生臭みも消える。これを炊きたての御飯の上にこんもり盛って、青海苔粉と煎った金胡麻をふり、煮切り酒で割った醤油を垂らす。行儀を気にせず透かさず頬張ると、暫し口福に陶酔することになるだろう。因みに、釜揚げコウナゴは冷凍保存が可能なので、適量をラップに包み、平らに固めておけば、解凍せずにオーブンで焙れるので重宝である。

女川町でJCO 東海事業所の臨界事故に関する町民説明会が開催されました

昨年9月に起きた茨城県東海村の核燃料加工会社 JCO 東海事業所の臨界被ばく事故を受け、女川町は原子力に対する地域住民の不安や疑問の解消を図るため、2月5、6日の両日、国や県、東北電力(株)の協力を得て今回の事故に関する説明会を開催しました。対象は女川、牡鹿両町の住民で2日間合わせて約300人が参加し、避難道路の整備を中心に、災害時対応についての活発な質問、意見が出されました。



女川原子力発電所3号機の建設状況について

女川原子力発電所3号機については、平成8年9月に着工以来、順調に工事が進められており、昨年12月には発電所の心臓部とも呼ばれる「原子炉圧力容器」が据え付けられました。



なお、2月末現在の工事の進捗率は約80%となっています。

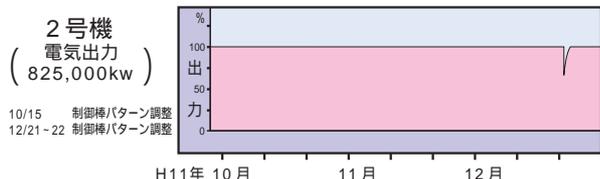
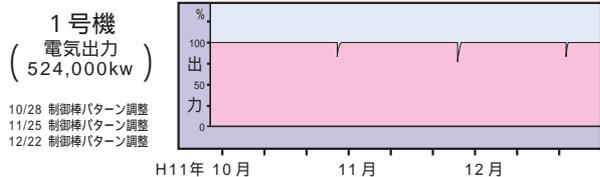
「原子力防災用車両」を配備しました

原子力防災資機材として、本年も原子力防災用車両を購入しました。

車椅子用のリフト付きマイクロバスを牡鹿町に、広報用のスピーカーを付けたワゴン車を石巻市及び石巻地区広域行政事務組合消防本部に、それぞれ配備しました。



女川原子力発電所運転状況のお知らせ



女川原子力発電所1号機定期検査の実施

1月17日から、女川原子力発電所1号機は、約3ヶ月間の予定で13回目の定期検査を実施しております。

平成11年10月~12月調査結果公表 (本誌P2~P3に掲載しています)

2月10日、県と東北電力(株)が実施している環境放射能及び温排水調査結果が「女川原子力発電所環境保全監視協議会」の確認を得て公表されました。

あとがき

平成12年度から表紙のデザイン等を新たにしました。いかがでしょうか。今後とも、よりよい誌面作りに努めていきたいと思っております。

また、今回は発電所の火災と西暦2000年問題について特集を組ませて頂きました。次号では、「原子力センター紹介コーナー」に替わり新コーナーの企画を考えております。

— by S.I —